

「歯周病～健康 に忍び寄る影」

歯周病は、歯の周りの歯肉や歯を支える骨

を失う慢性的な感染症で、症状や経過は、患者さんの健康状態やライフスタイルが大きく影響する生活習慣病の一つです。「口は、全身の健康や病を映し出す鏡」とも言われます。

歯周病があると、感染性の心血管系疾患や糖尿病になりやすいこと、未熟児の出生率が高いことなどが欧米諸国で発表されてきました。現在の日本で歯周病に感染している割合は50～70代の人の約半数にのぼり、歯周病は人類が誕生してから今日までで、一番感染者数の多い感染症としてもギネスにも記録されています。

歯周病の全身への影響

1 心臓疾患^{心臓疾患} 心臓疾患で最近重視されているのは脳梗塞^{脳梗塞}、心筋梗塞、狭心症、動脈硬化症などの原因となる血栓症です。この血栓を作る危険因子の一つが、歯周病のような細菌感染です。歯周病菌の産生する毒素が歯肉から血管に侵入し血管内に炎症を引き起こし血栓が作られます。重度の歯周病患者とそうでない人を比べると、冠動脈疾患を引き起こす

(医) 雄之会 つきやま歯科医院 理事

築山 鉄平



PROFILE

2000年九州大学歯学部卒。佐賀医科大学口腔外科講座で研修後、タフツ大学歯学部歯周病科(米国ボストン)所属。09年同臨床大学院卒業(最優秀臨床賞受賞)。米国歯周病学会認定医。

可能性が2～3倍程高いと言われています。

2 糖尿病 歯周病と糖尿病は、互いに悪影響を与え合い、様々な合併症を引き起こします。歯周病菌からの毒素が、歯肉から血管内に入り、血糖値を下げる働きをもつインスリンをつくりにくくし、血糖値は上昇します。そして血糖値が上昇する事により、歯肉も高血糖状態となり、歯周組織の破壊が進み、歯周病菌はさらに増え、糖尿病は悪化するという悪循環に陥るのです。重度の歯周病である糖尿病患者を対象に行った最近の調査では、歯周病治療を行った患者ほど、血糖値が下がる傾向がみられたという報告があります。

3 妊婦への影響 口の中に歯周病菌が増えると、免疫細胞から血中に「サイトカイン」という情報伝達物質が出されます。サイトカインの血中濃度が上がると妊婦の身体はそれを「出産開始の「コーサイン」とみなし、陣痛や子宮の収縮を起こし、早産を引き起こすこともあります。歯周病の妊婦はそうでない妊婦に比べ約5～7倍も早産や低体重児出産のリスクが高いことが明らかになりました。

早期治療と定期検診

歯周病の初期は痛みがないため、治療を受ける人が少ないのが現状です。数多くの科学的根拠が、歯周病がさまざまな疾患のリスクファクターとなることを示しています。大事なのは3～6カ月ごとの定期的な歯科検診と専門家による口腔内のクリーニング 妊婦の方は妊娠期間中の専門口腔内ケア 既に歯周病にかかっているとと思われる方は歯周病専門医の早期受診です。痛くなってから歯科医に駆け込むのではなく、悪くなる前から専門医による精密な検査を受けて予防していくことをお勧めします。

